

# 公園をみる・観る

## ～トリの巣いろいろ～

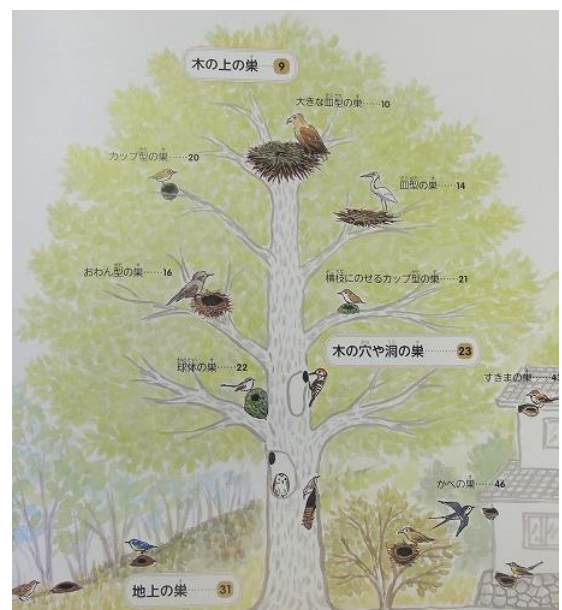
5月の公園はトリたちの縄張りを告げる声、愛を叫ぶ声で非常に喧しかった。彼らは何とか配偶者を呼び込み巣を造り、「子育て」という一大プロジェクトにかからねばならなかったからだ。

巣にはトリの種類によって様々な形状がある。皿形、お椀形、ボール形、穴状のもの（原始の人間を連想させてなんだか微笑ましい）など。巣の材料としては枯葉、枯れ草、小枝、コケ・シダ類など植物質のものや、羽毛、獣毛、クモの糸など動物質のものも多く使われている。トリたちにとって好ましい巣とは「重みを支える」「保温効果がある」ことで、巣は全体の形を作っている外巣と内巣と呼ばれる卵を産みつける産座（卵座）で構成されている。トリにとって「巣」とはどんな意味を持っているのか。「巣」の最大の役目は「子育ての場」である。卵を温め、孵化したヒナが独り立ちするまでの間、巣はトリたち親子にとって仕事場であり戦場でもある。

公園でお馴染みのトリたちの巣、子育ての現場を幾つか覗いてみよう。

アシ原で子育てをするオオヨシキリやセッカたちは植物質の巣材を使って、オオヨシキリはつぼ形、セッカはコップ状の巣を造る。春、セッカが白いチガヤの綿を啜えて飛び交う姿をよく見かけた。園路を歩いていると前方をヒバリが歩いていることがある、ヒバリは地面に巣を造る。草の根際の窪みに細かい枯れ枝を上手に編み込みながら敷き詰めて造っている。ヒナにエサを運ぶヒバリの親は、直接巣に降り立つことは無い。少し離れたところに一度降りた後、地面を歩いて巣に戻る。他に地面に巣を作る種としてシロチドリがあげられる。シロチドリは河川の中洲や海岸などの砂利のある場所で繁殖する。地面の窪んだところを選び、小石などを取り除き簡単な巣を作り産卵する。遠目にはどこが巣か分からないし、産んだ卵の様子は地面の色彩と似ていて敵の目を眩ましている。公園でも何回か干潟の砂地部分に産卵したが、何度かカラスに卵やヒナを取り上げられ、残念な結果に終わることがあった。カラスといえば、公園の駐車場の松の木に空き家になったカラスの巣があるらしい。まったくの空き家かどうかは定かでないが、どうも何かの事情で定住を決心できかねているのかももしれない。トリは一度捨てた巣は寄生虫の存在など衛生面の問題と外敵に知られてしまっていて襲われやすいとのセーフティ面から再度住み着くことは少ないと聞く。そこで、空き家同然の中古物件ですがあなただけの個室としていかがですか。地上約5メートル、陽がサンサンと降り注ぎ、緑に包まれた快適な居住空間、カラスの羽毛でできたカウチもついています。入居ご希望の方、当方で仲介の労をおとりいたしますよ。

（土×土）



鳥の巣図鑑より